様式（細則 5-2）

平成 26 年 3 月 31 日

浜田市議会議長　原田　義則　様

議員名　　平石　誠　㊞

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

会派　創風会

記

1. 期　　間　　平成 26 年 2 月 5 日～2 月 7 日

2. 視察又は訪問先

（1）大分県玖珠郡九重町　エルランチョグランデ

内容　　乗馬施設とまちづくりの関わり合いについて

（2）熊本県阿蘇市　　阿蘇市役所

内容　　地域ブランド戦略について、「然」の取組について

（3）福岡県宗像市　　道の駅　むなかた

内容　　施設見学等

3. 調査経費　３１,２２７円

4. 各視察先の調査内容

＊別紙のとおり

浜田市議会 受付 26.3.31

視　察　報　告　書

２０１４年２月５日～７日

会派視察として創風会 14 名で大分県玖珠郡九重町、熊本県阿蘇市、福岡県宗像市を訪問した。

以下、訪問各市、町についてそれぞれ報告する。

九重町（エルランチョ　グランデ）

1. 九重町の概要

九重町は、大分県南西部に位置しており、面積は 271.41k㎡ で人口約１万１千人の町である。町の中央部には筑後川の上流玖珠川東西に走り、西側に田畑、山林が開け、東南方には中岳、久住山、大船山等１０有余の九州の屋根というべき名峰連なる九重山群に囲まれている。耕地は、主に玖珠川沿いの流域と山麓の斜面地の標高 350m～1000m の間に階段状に散在し、大部分は山林・原野に覆われ、気温は寒暖の差が大きく、東北から九州を内包した気象条件ということである。

町の観光資源は、九州の屋根ともいわれる九重連山、九州きっての高原美で知られる飯田高原、九酔渓、竜門の滝、震動の滝などの渓谷・名瀑や宝泉寺、筋湯、長者原などの九重“夢”温泉郷があり、日本一の発電量を誇る地熱発電所など豊富な観光資源に恵まれている。日本一の吊橋「九重“夢”大吊橋」で全国的にも知られている。

2. 視察に至った経緯

金城自治区の乗馬施設、金城ウェスタンライディングパークが、新たな指定管理者のもと、リニューアルオープンされた。

この施設が浜田市の新たな集客施設として、生まれ変わり、地域が活性化する事、障がい者就労支援の成功を願い、先進事例のウェスタン乗馬牧場エルランチョグランデの取組みを視察した。

3. 調査項目

・乗馬施設とまちづくりの関わり合いについて

視察当日は、大雪で周辺施設も観光客が居ない状況だった。そのような中、瀬戸代表を含め数人のスタッフで施設の見学をさせていただいた。簡素では有るが、宿泊施設を併設した学習施設として整備され、建物の配置等創意工夫が見られた。

オープン当初、周辺で食事ができる所は 4 軒しか無く、レストランを併設し顧客ニーズに対応していたが、観光客も増え、食事処が増えたので、乗馬施設本来の業務に専念、周辺のホテルへ顧客を紹介するなどして、ウィンウィンの関係作りで地域と共に発展をし、冬場の閑散期は最低限のランニングコストのみで、施

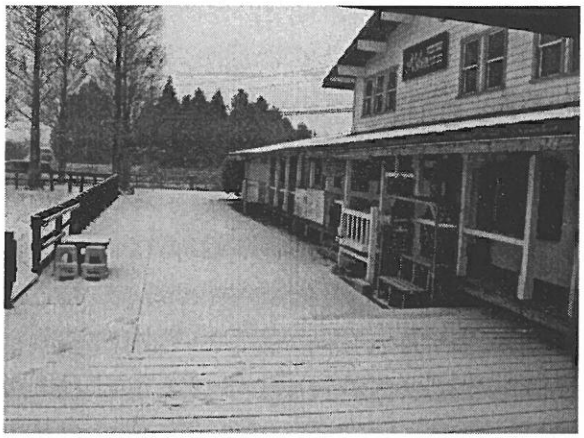
設やホテルもサービスを提供する事で、地域と共同体の意識が醸成された。

牧場体験で修学旅行等も受け入れ、ホースセラピーを取入れて、障がいの有る方の様々なニーズにも対応している。

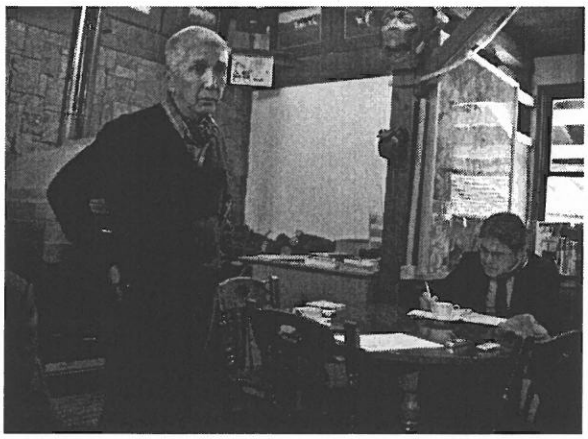
4. 所感（まとめ）

瀬戸代表いわく、金城ウェスタンライディングパークハ「日本一」の施設であり、儲からないはずがない。乗馬を楽しむ人は、高額所得者が多く、地域への経済波及効果があるとのことであった。

新年度から『ホースセラピー』も実施予定であり、この施設が浜田市にあってよかったと言われるように、我々もバックアップをしていきたい。



雪のエルランチョグランデ



瀬戸代表の講演

阿蘇市（地域ブランド戦略について）

1. 阿蘇市の概要

阿蘇市は、熊本県の北東に位置し、北に南小国町・産山村・大分県日田市、南に阿蘇山を挟んで南阿蘇村・高森町、西に菊池市・大津町、東に大分県竹田市が隣接しており、阿蘇市の規模は、東西約 30km、南北約 17km、面積は約 376 平方 km である。地形は、阿蘇五岳を中心とする世界最大級のカルデラや広大な草原を有し、比較的平坦地の多い阿蘇谷と、起伏に富み傾斜地の多い阿蘇外輪地域で形成されている。この地域は阿蘇くじゅう国立公園に指定されており、ハナシノブやスズランなど阿蘇特有の希少な植物が自生するなど、自然資源が大変豊富である。

2005 年 2 月 11 日に阿蘇郡の阿蘇町、一の宮町、波野村が合併し阿蘇市が発足した。

2. 視察に至った経緯

地域ブランド戦略として、全国的にも有名になりつつある熊本県阿蘇市で取り組まれている「然」ブランド戦略を学ぶことで、浜田市においても「どんちっち」ブランドやこれから取り組もうとしている「山陰浜田港」などにおいて、参考とすべく視察に至った。

3. 調査項目

地域ブランド戦略『然(zen)』の取組について

阿蘇市は阿蘇山をかかえ、昔から観光地として多くの観光客が押し寄せていたが近年は旅行の多様化により、団体から個人へとシフトし入込客は100万人に落ち込んだ。阿蘇市観光まちづくり課が音頭を取り、阿蘇市の活性化と地域おこしのためクリップ株式会社の曽谷氏に依頼、ものと人に焦点を当て、ストーリーを作り、あるがまま＝然(zen)、を立ち上げられた。人との出会い、ものとの出会い、それを風景に織り込み阿蘇市のブランドとして商品化し、全国発信につなげられている。この取組により、全国から『あるがまま』の然(zen)を求め人が阿蘇市へ訪れるようになって来たとのことであった。

4. 所感（まとめ）

地域ブランド戦略は浜田市でも「どんちっち」として取組を実施しているが、「どんちっち」＝「浜田市」と結びついていないように感じる。阿蘇市の取組は「然」＝「阿蘇市」となるように取組まれており、非常に参考となった。阿蘇市の取組はプランナーのクリップ株式会社の曽谷氏の力によるところがかなりのウェイトを占めているようにも感じられるので、同じ委託事業でも人選をしっかりとすべきであろうと実感した次第である。

火の国阿蘇の
恵みのブランド
然
zen
Aso City

宗像市（道の駅　むなかたについて）

1. 宗像市の概要

宗像市は、豊かな自然が残る「学術・文化都市」である。2004年版東洋経済新聞社の「住みよさランキング・快適度」では全国28位。北九州・福岡の両政令指定都市の中間にあり、北を除く3方向を山に囲まれ、南は筑豊地方と接する交通や文化の要衝であったため、数多くの歴史を有してきた。北の海岸線一帯は玄海国定公園に指定され、好漁場である玄界灘に面し、七夕伝説発祥の地と言われる県内最大の島・筑前大島や、遣唐使も立ち寄った海の正倉院・沖ノ島が沖合60キロにある。また、中央を市の水源でもある釣川が貫流し、玄界灘に注いでおり、このため保全活動には早くから取り組み、全国でも有数の高度下水処理など水質浄化に努めている。

市内を東西に横断するJR鹿児島本線や国道3号線・495号線により、福岡・北九州への通勤などの交通アクセスが充実し、住宅団地や大学、大型商業地などが相次いで進出。活気あふれる学術・文化都市として人口が急増した。これに伴い農村から急激な都市化が進み、学童保育や保育園の充実、医療費補助などの子育て支援や教育・文化の充実、環境衛生などの生活基盤が整備されました。人口は現在も伸び続けている。

平成15年に旧宗像市と旧玄海町が合併し、新生「宗像市」が誕生。平成17年には旧大島村と合併。現在では、市民と行政がいっしょに、地域コミュニティや市民参画・協働によるまちづくりが進んでいる。

2. 視察に至った経緯

『道の駅むなかた』平成20年に福岡県内10番目の道の駅としてオープンされた。

オープン当初から、予想を上回る来客数と売上で、毎年右肩上がりとなっているとのことであり、道の駅むなかたの経営のノウハウと商品構成等を視察し、浜田と地理的に似通った海山の産物が豊富な、宗像市の道の駅むなかたから、学ぶべきものが有ると考え、この視察を行った。

3. 調査項目

『道の駅むなかた』は平成15年4月に旧宗像市と旧玄海町が対等合併し新市まちづくり計画の中から誕生した。

事業取り組みの状況

・基本的に商品は、市内の生産者又は市内で加工された物に限る。
・生産者と直接契約、会社としては仕入れ無し、委託料12%〈最大16%〉が収入源。
・生産者が直接持込んだ、釣り物の魚と朝採れの野菜、その加工品の販売。
・商品はその日で完売（ＰＯＳで売上状況を把握し生産者にメールで通知）、売れ

残りは生産者がその日に持帰る。

・支払いは月末締めの翌月 10 日払い

・毎月各種の研修会を生産者向けに開催、品質の向上と販促に研鑽してい施設の運営状況

・営業時間：10 月～5 月（9 時～17 時）6 月～9 月（8 時半～17 時）

・休館日：毎月第 4 月曜日

・売上：平成 20 年 12 億 8 千万円、平成 24 年 16 億 4 千万円

・来場者数：平成 20 年 139 万人、平成 24 年 163 万人

・客数：平成 20 年 63 万人、平成 24 年 75 万人

・客単価：平均 2,300 円（他所より 1,000 円高い）

・購買層：50 代以上が半分を占める

・地域性：市街 88%（福岡 23%北九州 35%筑豊 20%その他 22%）市内 12%

・部門別売上：水産物 37.2%・農産物 32.4%・加工品 28.1%・他工芸品

・宗像市に指定管理料として 1100 万円/年、収益の 30%を寄付(平成 24 年度 1000 万円)株主に 10 万円/年の商品券

・現在利益剰余金は 2 億円積立

4.所感（まとめ）

道の駅「むなかた」の取組は非常に参考になるものであった。福岡市や北九州市等の大都市圏から約 1 時間の距離にあり、週末のドライブにはもってこいの場所で、浜田市に通じるものがあったように思う。浜田市の「お魚センター」も「むなかた」のように、生産者が消費者と直接やりとりできるようなシステムが構築できれば新たな集客に繋がるのではと考えるところである。販売システムの見直しは難しい課題ではあるが、時代に即した見直しを実施していく挑戦も必要かと思われる。実際に成功している事例を見逃すことなく、どんどん取り入れ、浜田市独自の販売システムを構築し生産者の喜びに繋がるように官民協働で取組みたい。

（店内風景）

（生産者の写真）